

7300 シリーズ

オペレーティングマニュアル

Genelec 7360A and 7370A
Smart Active Subwoofers

GENELEC®



はじめに

このたびは Genelec 7300 シリーズサブウーファースをご購入いただきありがとうございます。このマニュアルは、Genelec 7360A および 7370A サブウーファースの設定および使用について説明しています。これらのサブウーファースは、アナログオーディオおよびデジタル AES/EBU オーディオの両方を使用するあらゆる環境に簡単に統合できるようにデザインされています。Genelec 7360A および 7370A サブウーファースはマルチチャンネルアナログオーディオ信号およびステレオ AES/EBU 信号の正確なモニタリングを実現するようにデザインされています。マルチチャンネル AES/EBU 信号はサブウーファースに接続されている 9301A マルチチャンネルのデジタルオーディオインターフェースデバイスを使用することでモニターできます。

ISS (Intelligent Signal Sensing) はオーディオ入力に一定時間ない場合にサブウーファースをスタンバイ状態に自動的に切り替えることができます。スタンバイモードの場合、製品の消費電力は 1 ワット未満となります。入力信号を検出すると、サブウーファースは自動的にフル動作状態に戻ります。ISS 省電力状態に入るまでの待機時間は GLM (Genelec Loudspeaker Manager) ソフトウェアを使用して設定できます。ISS がアクティブな場合、モニタリングシステムを常に使用可能な状態に保つことができます。

インストール

このサブウーファースには、メイン電源ケーブル x 1、GLM ネットワークケーブル (5m) x 1、およびこのオペレーティングマニュアルが付属しています。接続する前に、サブウーファースとモニターの電源をオフにします。

接続

アナログ入力 1~7

XLR バランス入力は一般的にコンソールまたはモニターコントローラーから供給され、最大 +24 dBu です。

マルチチャンネル信号はサブウーファースに接続されている 9301A マルチチャンネルのデジタルオーディオインターフェースデバイスを使用することでモニターできます。

LFE 入力

LFE 専用の入力です。帯域幅は最大 150 Hz です。+10 dB DIP スイッチを使用することで +10 dB を追加できます。

アナログ出力 1~7

メインモニターをサブウーファースに接続するためのバランス XLR コネクターです。選択されているベースマネジメントのモードに応じて、これらの出力は未フィルターまたはハイパスフィルターがかかった信号をメインモニターに伝送します。詳しくは「ベースマネジメント」の章をご参照ください。

LFE 出力

LFE 入力の直接のスルーアウトです。一般的に LFE 出力は複数のサブウーファースを使用する際に LFE 入力に接続されます。

リンク出力

デジタイゼーション接続されたサブウーファースの 2 番目またはそれ以降に伝送されたメイン入力 1 から 7 の合計です。「複数のサブウーファースを使用する」の章をご参照ください。

リンク入力

サブウーファースをデジタイゼーション接続する際にこの入力を使用します。リンク出力からの信号のみを受信します。[Link In] が接続されている場合、アナログ入力 1~7 は接続してはいけません。「複数のサブウーファースを使用する」の章をご参照ください。

出力 1 / テスト 1

スタンドアロン手動モードでの使用時に 85 Hz 位相テストトーンを通過させます。[Test Tone] と表記されている DIP スイッチで有効にできます。

出力 2 / テスト 2

今後の用途用です。

AES/EBU 入力

2 チャンネル AES/EBU 入力です。

AES/EBU 出力

AES/EBU 入力の直接のスルーアウトです。

バイパス

ベースマネジメントのサブウーファースバイパスです。スタンドアロン手動モードで使用します。TRS/TS コンタクトオープン/クローズデバイスに対応します。

GLM ネットワーク

GLM (Genelec Loudspeaker Manager) ソフトウェアを使用したコンピューターコントロール用の CAT5 (RJ45) GLM ネットワークコネクター 2 基です。

電源入力

幅広い電圧に対応しており (100-240 VAC、50-60 Hz)、世界各地の至るところでサブウーファースを使用できます。商用電源が発電機、インバーター、低品質の UPS 機器により供給されている場合、商用電源電圧から高調波を除去し、電圧供給を安定化させることをおすすめします。

ベースマネジメント

ベースマネジメントは各入力からの信号を低周波成分と高周波成分に分割します。クロスオーバー周波数を下回る信号成分はサブウーファースにより再現され、クロスオーバー周波数を上回る信号成分はサブウーファースの出力に接続されているモニターにより再現されます。

7360A および 7370A は 2 種類のベースマネジメント手法を提供します。

集中型ベースマネジメント

この手法ではハイパスとローパスの両フィルターがサブウーファース内に作成され、GLM コントロールがあるかないかに関係なく、全てのセットアップ内で使用することができます。アナログのメインチャンネルの固定の 85 Hz クロスオーバーフィルターは、手動のスタンドアロンで使用する場合のデフォルトです。ただし、Genelec はいっそう柔軟性に優れた分散型ベースマネジメントの使用をおすすめします。

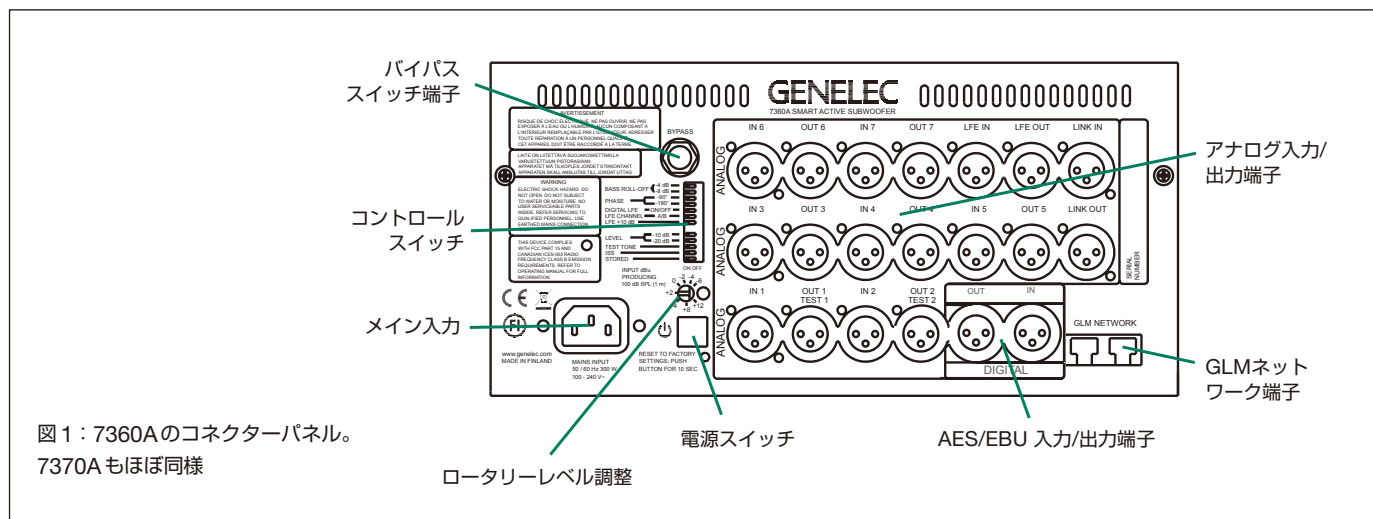
この手法では、全てのアナログ信号ケーブルがサブウーファースの入力/出力コネクター経由で対応するメインモニターにルーティングされています。

分散型ベースマネジメント

この手法では、ローパスフィルターがサブウーファースで、ハイパスフィルターがモニターでそれぞれ適用されます。GLM ネットワークを使用して同時に設定できます。この方法は、GLM が使用されているシステムでのみ使用できます。

分散型ベースマネジメントが使用されている場合、GLM マネジメントソフトウェアは、サブウーファース/モニターのクロスオーバーを 50 Hz から 100 Hz の間で調整できます。

分散型ベースマネジメントは 3 種類の信号配線構成に対応しています。



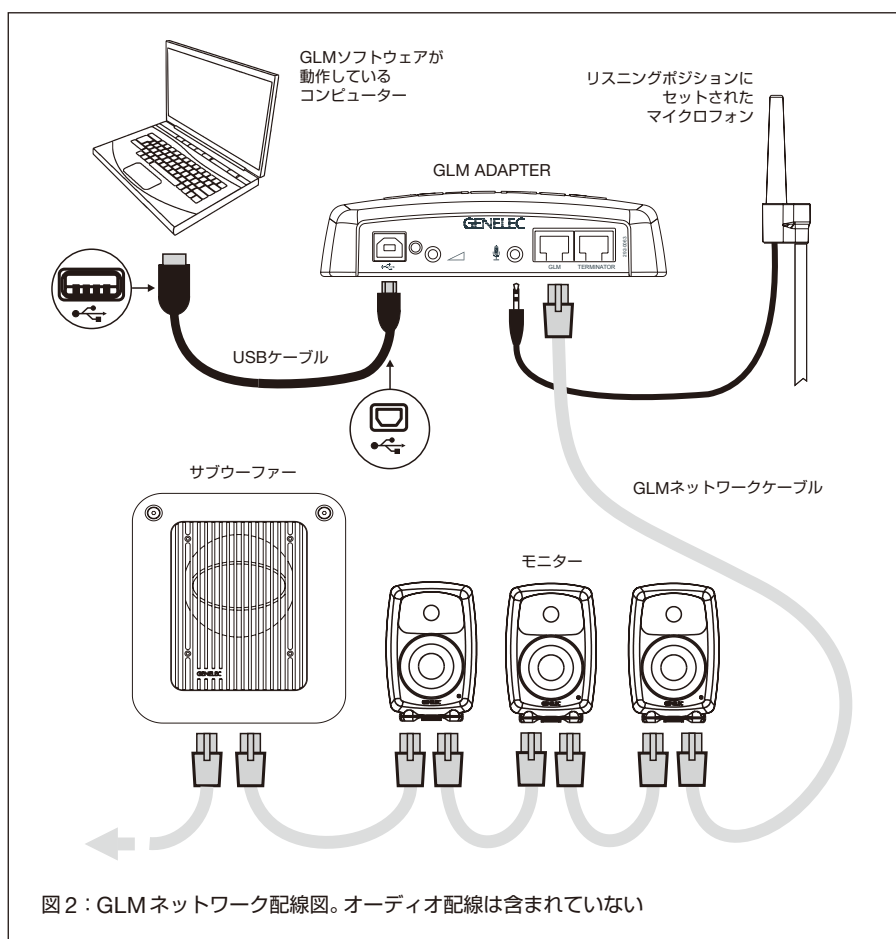
- ・全てのチャンネルがチャンネルの入力/出力コネクター経由で対応するモニターにルーティングされている場合。
- ・Yケーブルでソースからサブウーファァの入力コネクターとモニターの入力に分割している場合。
- ・各チャンネルに対するデュアル出力の信号ソースの場合。

GLM™コントロールネットワークを使用する

サブウーファァはGLM™ (Genelec Loudspeaker Manager) と Genelec独自のモニターコントロールネットワークおよび Genelec SAMモニターに完全互換しています。GLMコントロール手法を使用すると、20の室内音響補正パラメトリックフィルターでサブウーファァが持つ室内音響補正機能をフルに解放することができます。室内音響補正機能は、GLMソフトウェアを使用する場合にのみ利用可能です。GLM™ ネットワークを使用する場合については『GLM™ システムオペレーティングマニュアル』で説明しています。

システム設定

サブウーファァはGLM™ ソフトウェアとコントロールネットワークなしで使用することも可能ですが、GLM™ ソフトウェアを使用すると、全機能を最大限に発揮することができます。GLM™ (Genelec Loudspeaker Manager) ソフトウェアおよび Genelec独自のモニターコントロールネットワークは、1つまたは複数のサブウーファァを含むシンプルなステレオから極めて複雑な3Dイマージブ・セットアップまで、あらゆるシステムに対して自動化された音響イコライゼーションと調整を提供しま



す。GLMセッアップは素早く正確で、一般的な室内の狭帯域低周波の共鳴と放射に正確に対処し、周波数特性補正機能を提供します。設定はコンピューターを使用して制御したり、コンピューターが使用されていない場合にも設定を利用できるようにモニターに保存したりできます。Genelecは、GLMを使用してSAMモニターリングシステムを設定することをおすすめています。GLM™の使用と設定方法についての

詳しい説明は『GLM™システムオペレーティングマニュアル』をご参照ください。

設定は素早く行えます。手順は次のとおりです。

- ・各モニター（およびサブウーファァ）をCAT5 (RJ45) ケーブルで接続し、最後にGLM Adapterデバイスのコントロールネットワーク入力に接続します (図1)。

- ・ GLM AdapterデバイスをコンピューターのUSBコネクタに接続します。
- ・ マイクスタンドを使用して、Genelec測定用マイクをリスニング位置に配置し、マイクを上向きに立て、マイクの最高部がエンジニアの耳の高さになるようにします。マイクはGLM User Kitの一部です。
- ・ マイクケーブルをGLM Adapterデバイスのマイク入力に接続します。
- ・ GLMソフトウェアをGenelecウェブサイト(www.genelec.jp)からダウンロードします。
- ・ GLMソフトウェアをインストールして、ソフトウェア内の指示に従ってシステムを計測して設定します。
- ・ モニターのコントロールにコンピューターを使用しない場合、GLMソフトウェアを使用して設定をモニターに書き込みます(メニュー項目 [Store] > [Store the Current Group Settings...] を使用)。

GLMネットワークの接続を解除すると、[Stored] スイッチを [ON] に設定することでGenelec Loudspeaker Managerソフトウェアを使用して保存した設定を有効にできます。

GLMが有効でサブウーファーをコントロールしている場合、アナログおよびデジタル入力の使用はグループ内の [Input Type] により強制されます。

有効なデジタルクロックが検出されると、スタンドアロンの手動モードの場合、AES/EBU デジタル信号がアナログ信号に優先します。

スタンドアロンの保存設定を使用する場合、グループにより定義される入力タイプが使用されます。

GLMを使用しないセットアップ

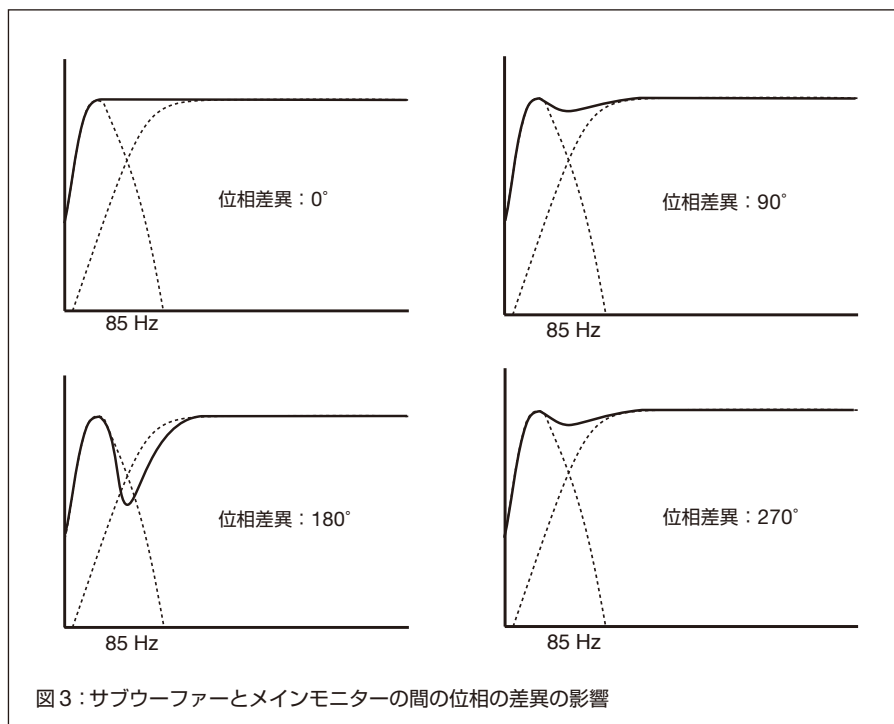
配線

7300シリーズサブウーファーは、固定の85 Hzアナログクロスオーバーフィルターを使用して簡単に設定できます。固定のクロスオーバーフィルターはファクトリー設定でオンになっており、ハイパスフィルターはサブウーファーのアナログ出力に使用されます。この方法を使用する場合、各信号ケーブルをまずサブウーファーに接続します。その後、各出力からモニターに接続します。このモニターの供給信号は85 Hzでハイパスフィルターされます。

LFE信号を使用する場合、LFE信号をサブウーファーのLFE入力コネクタに接続します。

コントロールスイッチ

[BASS ROLL-OFF] コントロールは超低域のブーストを補正します。4 dB単位で20 Hzレ



ベルを下げます。合計で12 dBの減衰が追加されます。両方のスイッチを [OFF] に切り替えるとレスポンスがフラットになります。

[PHASE] スイッチはサブウーファーの位相を選択したメインモニターに合わせるができます。位相が正しく調整されていないと、クロスオーバー周波数でレベルが下がる原因となります。「位相スイッチを設定する」の章をご参照ください。

[DIGITAL LFE] スイッチは選択されているサブフレームのローパス周波数を選択してLFEを再現します(下の「LFEチャンネル」参照)。周波数は [OFF] 位置で85 Hz、[ON] 位置で150 Hzです。

[LFE CHANNEL A/B] ではどのサブフレームがLFE信号を伝送するのかが選択します。[ON] がA、[OFF] がBです。AがLFEに対して選択されている場合、サブフレームBはメインチャンネルのオーディオを伝送すると考えられます。

[LFE +10 dB] 機能は+10 dBのゲインを追加します。「LFE +10 dB機能を使用する」の章をご参照ください。

[LEVEL] スイッチはサブウーファー出力レベルをスケールダウンします。これらのスイッチ設定は付加的で、ロータリーレベル調整コン

ロールの効果と組み合わせられます。

[TEST TONE] スイッチは位相のキャリブレーションに使用される85 Hzテストトーンを有効にします。「手動での位相調整」の章をご参照ください。

[ISS] スイッチは信号検出省電力機能を有効にします。

[STORED] スイッチはサブウーファーのメモリ内に保存されている設定とサブウーファーのコントロールでなされた設定を選択できます。保存されている設定は、GLMソフトウェアおよびGLMコントロールネットワークを使用して作成されており、サブウーファー独自のコントロールに比べて優れた機能を提供します。

コネクターパネルライト

通常、コネクターパネルのライトは緑で、通常の動作モードであることを示します。赤はアンプのクリッピングを、黄は熱過負荷をそれぞれ示します。赤や黄の警告灯が表示された場合、レベルを下げてください。

位相スイッチを設定する

メインモニターとサブウーファーの間で位相が正しく調整されていないと、クロスオーバー周波数でシステム全体のオーディオレベルが下がる原因となります。図3は、周波数特性への位

相の差異の効果を示しています。

メインモニターとサブウーファーの間の位相の差異は、室内におけるリスニング位置、サブウーファーとモニターの位置に依存します。位相調整は、これらの位置をまず決め、サブウーファーとモニターレベルを調整してから行ってください。GLMソフトウェアコントロールはいそを自動調整しますが、GLMが使用できない場合、以下の手動位相調整を適用できます。

手動での位相調整

Genelec 7360A および 7370A サブウーファーには位相調整用の 85 Hz 周波数テストトーンジェネレーターが内蔵されています。テストトーンジェネレーターはサブウーファーの [TEST 1] 出力に接続します。手動での位相調整用にモニターをこの出力に一時的に接続します。

システムの電源を入れて [TEST TONE] スイッチを [ON] に設定します。サブウーファーとセンターチャンネル出力に接続されているメインモニターを通して 85 Hz テストトーンが聞こえます。

1. -180° 位相スイッチをオンとオフで切り替えて、リスニング位置でサウンドレベルが最も低くなる位置に設定します。
2. 次に -90° 位相スイッチをオンとオフで切り替えて、もう一度サウンドレベルが最も低くなる位置に設定します。
3. 最後に、 -180° 位相スイッチを真逆に設定し、テスト信号を無効にします。これで位相調整は完了です。

LFE +10 dB 機能を使用する

Dolby Digital および DTS エンコーディングフォーマットは、メインチャンネルに相対して +10 dB ゲインの LFE チャンネルを提供します。サラウンドサウンドデコーダーは、+10 dB の LFE ゲインを自動追加してレベルバランスを復元できます。

[LFE +10 dB] 機能は、モニタリングシステムに接続されているソースにより追加されていない場合、制作段階で +10 dB のゲインを LFE チャンネルに追加できます。[LFE +10 dB] スイッチを [ON] 位置に切り替えると、機能が有効になります。LFE 出力が他の (LFE でない) チャンネルに比べて 10 dB 高いレベルであるとき、このスイッチを [OFF] に設定する必要があります。

[LFE +10 dB] 機能は、次のようなケースには使用しないでください。

- ・ +10 dB LFE ゲインがサラウンドサウンドプ

ロセッサーやミキシングコンソールの出力マトリックスなどの他のデバイスですでに使用されている場合。

- ・ LFE チャンネルに +10 dB ゲインを使用する必要のないオーディオフォーマットを生成する場合。

追加情報

室内でのサブウーファーの配置

サブウーファーの配置は周波数特性とサウンドレベルに大きく影響します。特に、室内音響の影響が強い場合はその傾向が顕著です。サブウーファーの位置をわずかに変更しただけで周波数特性に大きな違いが生まれます。まず、サブウーファーは、部屋の中央線から若干ずらして、前方の壁際に配置します。リスニング位置で周波数特性が最もフラットになる配置を見つけるには、秩序立てた試行錯誤が必要となります。サブウーファーはできるだけ壁に近づけて高出力になるよう設置します。サブウーファーを部屋の隅の近くに配置すると、低域のレベルがブーストされますが、低域のサウンドイメージが非対称になることがあります。壁からの距離がサブウーファーのドライバーから 0.6 m 未満になるようにします。こうすることで壁からのキャンセレーションを防げます。

動作環境

これらのサブウーファーは室内でのみ使用するようデザインされています。動作温度範囲は 15 ~ 35 度で、相対湿度は 20 ~ 80% (結露なきこと) です。結露を防ぐために、製品を低温環境で保存または輸送した後に温かい部屋に運び入れた際は、30 分 ~ 1 時間ほど待ってから箱を開けて主電源に接続してください。

最小隙間

グリルに覆いを付けたり、グリルの前の隙間が 0.1 m 未満になるところにサブウーファーを設置しないでください。環境温度が 35 度を超えないよう換気をするまたは十分な空間を取る必要があります。サブウーファー下に通気用の隙間を設けてください。厚みのあるカーペットは電子機器の冷却に必要な換気を妨げる可能性があります。レフポートが正しく機能するよう、開口部の前には少なくとも 7.5 cm の空間を設けてください。

埋め込み設置

サブウーファーが壁やキャビネット内部に埋め込み形で取り付けられている場合、アンプが十分に冷却され、バスレフポートからの空気の流りが妨げられないようにする必要があります。サブウーファーと凹部の間に 7.5 cm の隙間を

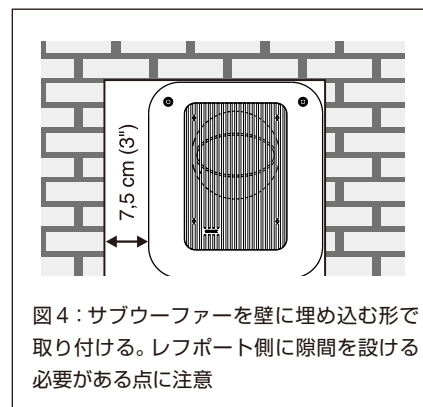


図 4: サブウーファーを壁に埋め込み形で取り付ける。レフポート側に隙間を設ける必要がある点に注意

設けてください。サブウーファーはドライバーが部屋の方向を向いている状態で凹部の右側に取り付けます。こうすることでバスレフポート側に十分な空間を設けることができます。通気に必要な隙間を除き、凹部の高さと同様は、サブウーファーが納まるぴったり大きさになっていなければなりません。高さと同様に隙間があると、不要な音響への影響が生じることがあります。

複数のサブウーファーを使用する

Genelec 7360A および 7370A サブウーファーは、高 SPL 用途に複数台を組み合わせ使用することができます。必要な配線はデジタル信号とアナログ信号の場合で異なります。

デジタル配線

信号ケーブルをチェーン内の 1 番目のサブウーファーの AES/EBU 出力コネクタから次のサブウーファーの AES/EBU 入力コネクタに接続します。デジタル LFE スイッチと LFE チャンネル A/B コントロールスイッチがチェーン内の全てのサブウーファーで同じ設定になっていることを確認します。

アナログ配線

アナログ信号で複数のサブウーファーをデジチェーン接続する場合、ケーブルをリンク出力コネクタから次のサブウーファーのリンク入力コネクタに接続します。LFE 信号を使用する場合、LFE 出力を次のサブウーファーの LFE 入力にも接続します。

複数のサブウーファーを使用する場合のコントロールスイッチ設定

GLM とその AutoCal 機能をキャリブレーションに使用する場合、コントロールスイッチを手動で調整する必要はありません。GLM が利用できない場合、手動による調整が必要となります。

1. 他のサブウーファー全ての電源をオフにし

た状態で、サブウーファーをひとつずつキャリブレーションします。1番目のサブウーファーから開始してください。

2. まず、サブウーファーのロータリーレベル調整トリマーと適切なテスト信号を使用して、サブウーファーと全てのモニターの間でレベルをキャリブレーションします
3. 「手動での位相調整」の章の指示に従って1番目のサブウーファーの位相を調整します。
4. チェーン内の全てのサブウーファーに対してひとつずつ手順1から3を繰り返します。
5. この方法で接続した2つのサブウーファーが互いに近くに配置されている場合、ベースレベルを6 dB単位で上げます。1台のサブウーファーと比較して、3台のサブウーファーではSPLが9.5 dB、4台では12 dB上がります。サブウーファーのチェーン全体のSPLレベルをメインモニターシステムに合わせるために、チェーン内の全てのサブウーファーのレベルを適切に下げます。

メンテナンス

サブウーファー内部にオーナー自身で点検修理が可能な部分はありません。保守や修理はGenelec認定サービスのみ実施可能です。

保証

Genelecサブウーファーは、性能に影響を与える製造上の瑕疵および不具合に関して2年間保証されています。販売条件および保証条件について詳しくは販売店にお問い合わせください。www.genelec.jp/customer-service/ よりモニターをご登録ください。これにより3年の延長保証（トータル5年保証）が受けられます。

安全性についての検討事項

7360Aおよび7370Aは国際安全基準に準拠するようデザインされていますが、安全な動作を確保するため、以下の警告と注意を順守する必要があります。

- ・保守および修理をGenelec認定サービス以外の者が実施してはいけません。
- ・サブウーファーエンクロージャを解体してはいけません。
- ・この製品を保護されたアースのない電源ケーブルおよび電源に接続して使用しないでください。人身傷害の原因となる場合があります。
- ・火事や感電を防ぐため、製品を水または湿気に曝さないでください。

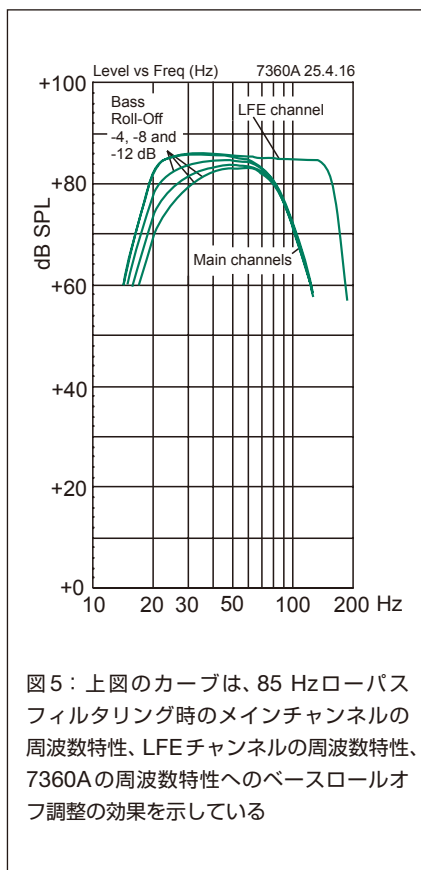


図5：上図のカーブは、85 Hzローパスフィルタリング時のメインチャンネルの周波数特性、LFEチャンネルの周波数特性、7360Aの周波数特性へのベースロールオフ調整の効果を示している

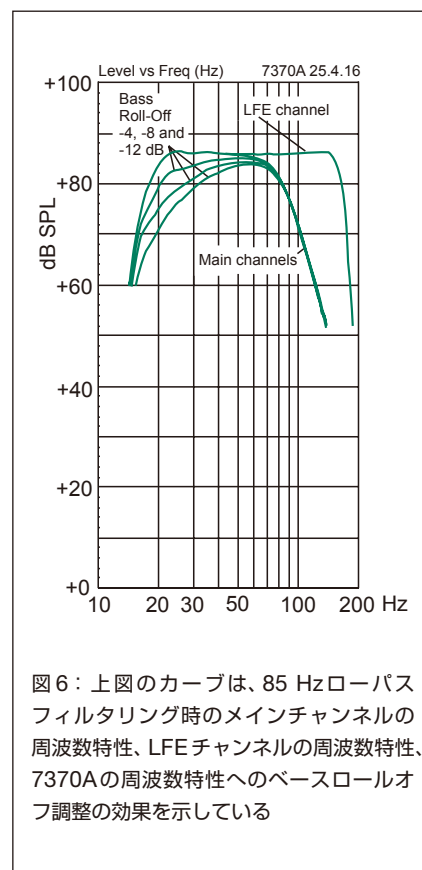


図6：上図のカーブは、85 Hzローパスフィルタリング時のメインチャンネルの周波数特性、LFEチャンネルの周波数特性、7370Aの周波数特性へのベースロールオフ調整の効果を示している

- ・花びんなど液体で満たされた物体をサブウーファーの上や付近に置かないでください。
- ・アンプはケーブルがアンプまたは電源コンセントから取り外されていない場合は電源から完全に接続解除されません。
- ・十分な冷却を保つため、サブウーファーの背後および周囲で空気が対流している必要があります。サブウーファー周辺の空気の流れを遮らないようにしてください。
- ・これらのサブウーファーは85 dBを上回る音圧レベルを生成できますが、このレベルは聴覚に恒久的な損傷を与える場合があります。

FCC規則への準拠

本製品は、FCC規則のパート15に準拠しています。動作は次の2条件に基づきます。

- ・本機器が有害な妨害の原因とならないこと、および
- ・本機器が不要な動作の原因となる妨害を含むあらゆる妨害を受信すること。

注：本装置は、テストの結果FCC規則のパート15に従い、クラスBのデジタルデバイスの制限を遵守していることが確認されています。これらの制限は、住宅に設置するにあたり有害な妨害に対する適切な保護を提供することを目的としています。本装置は無線周波エネルギーを発

生、使用、放射しており、指示に従わずに設置または使用された場合、無線通信への有害な妨害の原因となる場合があります。ただし、特定の場所に設置することによって妨害が発生しないという保証はありません。本装置がラジオやテレビの受信の有害な妨害の原因となる場合は（装置電源をオン・オフすることでご確認いただけます）、以下の対策を1つ以上行って妨害を正すことをおすすめします。

- ・受信アンテナの向きまたは場所を変更する。
- ・装置と受信機の距離をさらに空ける。
- ・受信機が接続されているコンセントとは別のコンセントに装置を接続する。
- ・取扱店または経験豊富なラジオ技術者またはテレビ技術者に相談する。

製造者によって明示的に許可されていない変更を行うと、装置を操作する権限が無効になる場合があります。

仕様		
モデル	7360A	7370A
低域カットオフ周波数、-6 dB	19 Hz	19 Hz
高域カットオフ周波数、-6 dB (メインチャンネル/LFE)	100 Hz/150 Hz	100 Hz/150 Hz
周波数特性の精度、+/-3 dB	19 Hz - 100 Hz	19 Hz - 100 Hz
ドライバー	250 mm (防磁シールド含む)	305 mm (防磁シールドなし)
高調波歪み、軸上、1 m、半空間、30~85 Hz	2次 ≤ 3% @ 90 dB SPL 3次 ≤ 2% @ 90 dB SPL	2次 ≤ 3% @ 95 dB SPL 3次 ≤ 3% @ 95 dB SPL
30~85 Hzを平均した短期正弦波最大音圧出力、軸上、半空間、1 m	≥ 109 dB SPL	≥ 113 dB SPL
ランダムピンクノイズの最大ピークSPL出力、半空間、1 m	≥ 114 dB SPL	≥ 118 dB SPL
残留ノイズレベル、軸上、1 m (A特性)	< 5 dB	
質量	27 kg	48 kg
寸法 (高さ x 幅 x 奥行き)	527 x 462 x 365 mm	625 x 555 x 496 mm

アンプセクション		
短期アンプ出力 (長時間出力はドライバーユニット保護回路により制限)	300W	400W
アンプシステム THD (通常出力時)	≤ 0.01%	
電圧	100-240 VAC 50/60 Hz	
消費電力		
スタンバイ、ISS有効	<1 W	<1 W
待機	15 W	20 W
フル出力、ピーク	300 W	400 W

シグナルプロセッシングセクション	
アナログ信号入力コネクタ、XLRメス、バランス、10k Ω	pin 1 gnd, pin 2 反転なし、pin 3 反転
最大アナログ入力信号 アナログ入力感度 (100 dB SPL @ 1 m) ロータリーレベル調整	+25.0 dBu +12 ~ -6 dBu
デジタル信号入力コネクタ、XLRメス、110 k Ω デジタル信号出力 / Thru コネクタ、XLRオス、110 Ω	AES/EBU シングルワイヤ AES/EBU シングルワイヤ
デジタルオーディオ入力 ワード長 サンプリングレート デジタル入力感度 (100 dB SPL @ 1 m) ロータリーレベル調整	16 - 24 bits 32 - 192 kHz -30 dBFS
サブソニックフィルター (18 dB/オクターブ)	19 Hz
コントロールネットワーク タイプ 接続	プロプライエタリ GLM™ ネットワーク 2 x RJ45, CAT5 ケーブル
GLM™ ソフトウェア周波数特性調整パラメトリックノッチフィルター	20
システムキャリブレーション	Genelec GLM AutoCal™
クロスオーバーサブウーファー / サブウーファー出力チャンネル 集中型ベースマネジメント 分散型ベースマネジメント (GLM コントロールのみ)	サブウーファー : ローパス 85 Hz、出力 : ハイパス 85 Hz サブウーファー : ローパス 50 Hz ~ 100 Hz、出力 : フィルターなし
LFE カットオフ	150 Hz
ミッドバンド除去 >400 Hz	≥ 50 dB
ベースロールオフコントロール動作範囲 (4 dB 単位)	0 ~ -12 dB @ 20 kHz
位相整合コントロール	90° ステップ、ディップスイッチコントロール 15° ステップ、GLM コントロール

7360A および 7370A オペレーティングマニュアル

GENELEC®

株式会社ジェネレックジャパン

<本社>

107-0052

東京都港区赤坂二丁目22番21号

電話番号: 03-6441-0591

<長野オフィス>

381-0201

長野県上高井郡小布施町小布施1497-2

修理お問い合わせ先

<ジェネレックサービスセンター>

電話番号: 050-3786-1236

平日 10:00 ~ 18:00

(夏季/年末年始休業を除く)

修理のご依頼は、お電話または修理依頼フォームがご利用いただけます。修理依頼フォームは、Webサイトのカスタマー・サービス内にご利用しております。

www.genelec.jp/customer-service/